

こんにちは

NO. 23

日本の学童ほいくニュース

です

2007年2月 東京都学童保育連絡協議会 豊島区南大塚3-37-10

TEL 5951-2789 FAX 5951-2795

URL: <http://www.gakuho-tokyo.jp> E-mail: gakuho@a.toshima.ne.jp

今月号の一押し

その1

特集・でら！学んだがや全国研究集会・記念講演 語ること、聴きとられること

横易園子

子どもたちを追い込むのではなく、そっと支える大人でありたい！！横易さんの講演は2回目だった私ですが、やはり、幾度お話を伺っても、自分自身への問い返し胸に迫ってくるのです。わたしが指導員であることの意味、子どもたちのそばにいる大人であることの意味を、「あなたは逃げてなんかいない、あなたは弱くなんか無い、一生懸命自分を大事にしようとしているよ。」そのことを伝えられる大人でありたいし、その言葉を子どもたちに受けとめてもらえる大人でありたいな。まわりの大人たちが、更にいじめを加速させたり、いじめられている子を追い込んだりしているという事実にもっと敏感になるべきなんですね。そしてそのことは、2月号の「子どもたちのまなざし」の中で土佐いく子先生も指摘されました。「何よりも大事なのは、いじめられている子のSOSをキャッチすること」だと。また、「いじめの根絶」の危険性にも言及されています。いじめを止められずだまっているしかななくて苦しんでいる子の心、いじめる側にいた子どもたちのもがきにも長い時間をかけ、子ども同士、親たちをつなげている取り組みが必要なんです。いじめを取り締まるような対応療法ではなく、一人ひとりがかけがえのない存在であり、あなたはあなたのままでいいのだとみんなが確かめあえたなら...って思います。

その2

特集・でら！学んだがや全国研究集会 お待たせしました！15年ぶりの東京開催

全児童対策、放課後プラン、大規模化...東京の学童保育の施策の変動が学童保育を見えなくさせている実態がある、新しい親も指導員も、学童保育って何なのか分からない、父母会活動、連絡協議会の活動もかつてのような活気を取り戻せ

ないで苦しんでいる..だからこそ！！東京での全国集会開催は最大のチャンス！！全国の仲間たちからたくさんのパワーと勇気と感動をもらって、ぜったいに次の一歩につなげていきましょう！！

みなさん、11月10日11日、よろしくお祈りしますよ！！

2月号の特集

でら！学んだがや全国集会

記念講演・語ること、聴きとられること

中央大学教授・臨床心理士 横易園子

特別報告

「つらい時、そばにいるよ」の思いを伝えたい

天童市天童中央学童保育所指導員 岡村美由紀

第10分科会・子どもにやさしい学童保育の施設を 実態と改善の課題

岡山県学童保育所連絡協議会事務局長 糸山智栄

第13分科会・指導員にかかわる課題

専任・常勤・複数体制と労働条件の確立

北海道学童保育連絡協議会事務局長 田澤利弘

第14分科会・障害児を含めた生活作り

実践の交流と確かめ

日本福祉大学 木全和巳

第19分科会・子どもの発達と学力

名古屋大学講師 藤村宣之

参加者の声

やって良かった全国研 in 愛知

愛知学童保育連絡協議会会長 江坂佳代子

お待たせしました！15年ぶりの東京開催です

東京都学童保育連絡協議会事務局長 菅井憲子

今月の都連協人

でら！学んだかや全国研究集会・参加者の声
東京都世田谷区保護者

お待たせしました！15年ぶりの東京開催です
東京都学童保育連絡協議会事務局次長 菅井憲子

全国研の巻頭写真 品川のお父さん

今月号の一押しその2

その1

講座・障害児の発達保障と生活作り 11 文化に満たされる生活と人生

大阪電気通信大学 白石 正久

読者のひろばで石川県の指導員の菊沢さんも感じてくださったように、私も、白石先生の「障害をもつ子も一人の人間」というあたたかいまなざしが大好きです。あと1回でこの講座が終わってしまうけれど、終始障害のある子について書かれていても、どんな子にも子どもたち全てに通じることとして読ませていただきました。今回の「文化」もしかし、「文化」といっても難しいことじゃない。「食べる」ということ一つを取っても、それは単なる「摂取」ではなく、「食べる」ことを通して人と人とのつながりがあり、人の思いがあり、一人ひとりの顔がある。そこで培われていくものが「文化」である...と。また、自閉症の子どもたちのこだわりの世界においても、わたしたちはついつい自分だけの特異な興味の中に入っているのではなく、もっと広い世界へとひっぱって行こうとしてしまう。けれど、「子どもの世界に無意味なものはない！」と白石先生。はじめは一人の世界でも、その子のそばにいて、一緒に“楽しいね”と寄り添う人がいてくれることで、興味の窓がどんどん開いていく。どの子も、「あなたはあなたのままで...」と認められていく中で、子どもたちの文化も広がっていくのですよね。

その2

ずいそう 通じ合う力

山田ズーニー

ズーニーさんにとってどうしてもかなわない人...
それは、4年前に生まれて初めて講演した時の自分自身なんだって！！今どんなに上手に原稿が書けて、上手にしゃべれるようになっていたとしても、へたくそな自分の講演にお客さんが一体となってくれたあの時には絶対に勝てないんだって！！ズーニーさんは言います。人の心に通じるものば苦手が、得意かではない、「うまい下手、経歴知識、技術のあるなしでもない」「逃がずに、まっすぐに、自分の想いを伝えようとする心」なのだと。わたしたちも、学童保育のことたくさん人に伝えたいと願っている。でも、心のどこかで、分かってくれない人も、すべての人になんてムリ...と逃げているところがあったらどうか。ズーニーさんのずいそうを読んで、上手になんていいた、技術じゃないんだ、つかえつかえでもいい、ただただ伝えたい、その思いをまっすぐ届けたいのだと。ちょっと勇気もらっちゃたなあ。

次号予告3月号

特集・子どもが“まんなか”学校と学童保育
第2特集・「放課後子どもプラン」について

- ・学校での子どもたち 渡辺恵津子
- ・「放課後子どもプラン」の動向

ずいそう 山田ズーニー

講座・障害児の発達保障と生活づくり 白石正久

子どもたちのまなざし 土佐いく子

試せばハマる家事のワザ 佐光紀子

カメラでこんにちは/父母会/子育て日記/わたしは指導員/クイズ/まんが/子どものひろば/読者のひろば/ほか